

## 7 日本人の家を訪問する

### 1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

#### (1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝アンナ）が、どこ（＝祐太の家のリビング）で、何をしている状況（＝祐太の母親と話している）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「アンナさんは今どこにいますか」「誰と話していますか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといいでしょう。

#### (2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話のスクリプトを読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話のスクリプトは見ないように学習者に指示します。ただし、p.128 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面でうまくいった例を挙げています。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話スクリプトと英語の翻訳は別冊にあります。）

#### (3) ペアやグループで気づいた点を話しあう

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 129 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話しあいます。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A のスクリプトの気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

会話 A の問題点	会話 B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話の冒頭でアンナが裕太の母の質問に対し普通体で答えており、裕太の母に対してよくない印象を与えたかもしれない。(この点は以下の点に比べ重要度は低い。)</li> <li>・以下 3 点が気まずい雰囲気を作ってしまう、会話を途切れさせている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 裕太の母はアンナの父親がいないことを知らずにアンナの家族について聞いてしまった。</li> <li>* 裕太の母に家族のことを聞かれ、アンナは「父はいません」と言い切っている。</li> <li>* 裕太の母が「ごめんなさいね。変なことを聞いちゃって。」と謝っているのに対し、アンナは「はい」と答えている。</li> </ul> </li> <li>・以下の 2 点により、余計に気まずさが増している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* アンナはリビングにある花がきれいだと思っても何も言わない。</li> <li>* アンナは出されたお菓子の食べ方がわからないが食べ方を聞かず、黙っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話の冒頭でアンナが裕太の母の質問に対し、です・ます体で答えており、裕太の母に対していい印象を与えたかもしれない。</li> <li>・裕太の母に家族のことを聞かれ、アンナは「家族のことはちょっと……。複雑なので。」と、うまく返答を避けている。</li> <li>・以下の 2 点により、会話が盛り上がっている。(会話 A の気まずい沈黙とは対照的。)</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>* アンナはリビングにある写真について質問をしている。</li> <li>* アンナはリビングにある写真が富良野旅行で撮ったものだと聞き、「よく旅行をされるんですか」と関連する質問をしている。</li> </ul> </ul>

#### (4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出し合う

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた(気づきが期待される)点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の○○のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることもあります。学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。